



《東京都中学校長会》
2月会長だより

平成30年2月8日(木)
(区市等校長会長連絡会)
会長 岩永 章

1 挨拶

今年度も残すところあと2か月弱となりました。東京大会終了後も、多くの課題に一つ一つ対応しながら会長として為すべきことを粛々と進めています。会員の皆様方におかれましても、授業観察や自己申告に伴う面接の実施などを含め、学校評価や次年度の育課程の編成と、お忙しい日々を過ごされていると思います。また、積雪やインフルエンザの流行など、生徒や教職員の安全・健康管理に気を遣われたことでしょうか。こうした中でも、本会の活動にご協力いただき心より、お礼申し上げます。校長会等の様々な活動も大変かと思いますが、校長として足元をすくわれることの無いよう、学校や生徒・教職員の現状を的確にとらえ、先を見据えた学校経営が、私たちに求められていると思います。心して今年度の残りの期間を過ごしていきたいと考えています。各地区でも適切な学校経営が進められようお願いします。

2 当面の課題

(1) 高等学校入学者選抜に関わる内容

① 都立高等学校入学者選抜試験における改善点への対応

平成30年度入学生向けの都立高等学校入学者選抜において、インフルエンザ等による選考欠席の場合の対応等が改善されました。この詳細は都教委から既に周知されていますが、東京都教育委員会のホームページにおいて、逐次その詳細の説明が行われています。進路対策委員会でも都のホームページを注視し、各地区に最新の情報提供を心がけているところです。各地区ではその情報を確実に全校に伝え、活用されるようご協力をお願いします。

② 高等学校入学者選抜関係書類の不備の根絶をめざして

進路対策委員会より、都立高等学校入学者推薦選抜出願に向けた願書・調査書・推薦書等の不備を防ぐためのチェックに関する資料が、全校に配信されています。こうした資料を活用し、学力検査に向けた出願ではミス無くしていきたいと思います。すでに、出願は終わったところですが、管理職が公印を押す段階で必ずチェックを行う姿勢は、今後も続けていきたいと思います。

(2) 平成30年度に向けた都校長会組織編成に向けた規約改正

1月下旬より、次年度の都校長会組織の検討に着手しています。部長・副部長については、作業が進んでいますが、委員会の活動内容は、専門的なものばかりで経験が必要な仕事となっているので、委員長・副委員長の互選制には課題があります。そこで、本会の規約を、委員長も前年度末に部長・副部長と同様に推薦し、総会で承認を得る形に改正することを提案します。各地区でのご協議をよろしくお願いします。

3 連絡・報告事項

(1) 全日本中学校長会第3回理事会

1月19日(金)に開催された標記の理事会で、各道府県に向け『中学校教育70年記念第68回全日本中学校長会東京大会』への協力のお礼を申し上げてきました。また、報告書の送付と会計報告作成の進捗状況を説明しました。議事終了後に行われた情報交換会では、「学校・家庭・地域との連携」並びに「地域に開かれた教育課程」の二つのテーマで、関東甲信越地区の校長先生方と意見交換を行いました。

(2) 第69回全日本中学校長会鳥取大会に向けた引き継ぎ

1月26日(金)に鳥取県米子市にて、鳥取県の中学校長会と鳥取大会開催に向けた事務引き継ぎ会を行いました。各部から部長もしくは副部長の先生方のご出席をいただき、会に臨みました。当日は自己紹介に続き、総務部がまとめてくれた東京大会の資料等をもとに、まず分担ごとに分かれて引き継ぎを行い、その後に全体会で理解を深めるという形式で進めました。グループごとに、書面からは読み取れない事柄を中心に引き継ぎを行いました。限られた時間ではありましたが、内容の濃い情報交換を行うことができました。

(3) 教育庁人事部と本会との情報交換会

2月5日(月)に教育庁人事部と本会役員との意見交換会を行いました。今回は「再任用制度の今後の考え方」と「働き方改革」の二点に絞って意見交換を行いました。その中でも特に、「都教委としても様々な学校支援策を検討し、予算措置を行う。」という姿勢が印象に残っています。具体的には、スクールサポートスタッフ(小・中学校400校分)の確保などが案として示されています。中学校長会としては、教員の持ち時数の見直しを求めているところですが、定数法の縛りもありなかなか実現が難しい状況で、当面は、教員以外の人的措置で対応するとのことでした。